

# 新任職員インタビュー



大学院で教育を学び、卒業後は県立高校教諭として勤務しました。高校3年生を担当した際に、「人生において仕事が占める時間の長さ」、「自己実現」、「生活保障」の観点で職業選択が人生に及ぼす影響力の大きさに気が付きました。そして、1人でも多くの人の支えとなることが私の自己実現だと考えました。そのため、現場経験を活かし、仕事と

いう観点から、1人でも多くの人を支えたいと思い入省しました。現在は若年者雇用対策課で、主に新規卒業者やフリーター等の若年者雇用に関する業務を行っています。

「雇用」は経済や社会の影響を受けやすく、流動的で、どの時代でも国民の関心が高い分野です。難易度は高いですが、より良い若年者雇用のために新たな制度設計の検討や既存制度の見直し等は国の未来の労働を支えていると感じられ、魅力的です。

### 今後したいこと

まずは、所掌分野の実態把握及び専門性の深化に努め、行政官の土台を構築していきます。そして現場での経験を活かし、現場とのシナジーを生む政策立案を行うとともに国民の声を政策に翻訳できるような行政官になりたいと思います。

人材開発統括官付  
若年者・キャリア形成支援担当参事官室  
若年者就職援助係

あおの げんた  
青野 源太

若年者・キャリア形成支援担当参事官室は、若年者の就労支援を所管しており、新卒応援ハローワークやわかものハローワーク、地域若者サポートステーション等に関する業務を実施しております。また、教育訓練給付の講座の指定も所管しており、政府全体として取り組んでいる「人への投資」の関係部署の1つとして、リ・スキリング政策の一端を担っています。

厚生労働省での仕事は、省内だけでなく他省庁や、関係団体等と一緒に仕事を進めることがあります。実際に仕事を進めていく上では、そのような方々とうまくコミュニケーションをとっていくことが重要だと実感しています。職場はとても明るい雰囲気です。業務に関することも、そうでないことも、忌憚なく相談することができるので、責任ある仕事に対しても不安無く取り組むことができます。

人材開発統括官付  
若年者・キャリア形成支援担当参事官室  
企画係

### 今後したいこと

厚生労働省は、所掌が幅広いですが、その分、国民の生活を最も身近で支える、大切な官庁の一つであると考えています。様々な部署で経験を積むことで、幅広い知見を有する行政官になりたいです。

いなば ゆうだい  
稲葉 雄大

大学・大学院では心理学を専攻していました。大学院では家事・育児に関する研究を行うとともに、大学院に併設されていた心理相談室において心理相談活動を行っていました。

現在はハローワークにおける障害者への職業紹介に関わる業務を行っています。具体的には、障害者の方の新規求職申込件数、就職者数、障害者専用求人数などの集計、各都道府県労働局からの問合せ対応、資料作成などを行っています。

入省前は残業が多いなど、過酷な職場という漠然とした印象を持っていました。しかし、毎月上司から有給休暇の取得を推奨されること、時間休の取得やテレワークが可能なことなど、柔軟に働くことができる環境でワークライフバランスを考えられている職場と感じています。

### 今後したいこと

行政官として未熟さを日々痛感しており、具体的には、法令や業務に関する知識、制度への理解が足りないと感じています。これらに関する知識を深め、労働行政を体系的に理解できるよう、業務に励みたいです。

職業安定局 障害者雇用対策課 職業指導係

たなか しゅんすけ  
田中 俊輔

うつのみや ゆうな  
宇都宮 優菜

職業安定局 総務課  
首席職業指導官室 職業紹介係

社会学を学ぶ中で、性別などの属性による不平等を解消したいと思うようになりました。働くことは自己実現など、生きがいとして重要な役割を果たすことから、就労支援によって、全ての人が多様な選択肢をもち、生きがいをもって生活できる社会を作りたいと思い、厚生労働省を志望しました。

### 今後したいこと

現場と施策をつなげるような行政官になりたいと考えています。まずは必要な知識を身につけ、それと同時に人間科学職としての専門性を深めていきたいです。来年度の地方研修では現場の視点を身につけたいと思います。

首席職業指導官室は、全国のハローワークの職業紹介を統括する部署です。他課室などからの依頼や照会などを室内の担当係へ取り次いだり、一般の方や全国の労働局からの問い合わせに対応したりしています。入省前は国家公務員という堅い雰囲気を想像していましたが、実際には気さくな方が多く、コミュニケーションの取りやすい雰囲気でした。上司や先輩方が頻りに声を掛けてくださり、私も相談などをしやすいです。